OIDAI 60th
−AI×DX×共創−

追手門学院大学60周年 1966▸2026

学院志研究室 **News Letter** 第18号

更地から、知の拠点へ 写真でたどる総持寺キャンパス

# 小学校記念室 ― 収蔵室の整理 ―

2025年度、学院志研究室が取り組んだ主要事業のひとつに、追手門学院小学校記念室の整理があります。この記念室は、追手門学院の前身である大阪偕行社附属小学校のあった明治期の資料を含む、歴史的に極めて貴重なコレクションを擁しています。昭和43年（1968）の創立80周年を機に設置され、同年には高松宮両殿下もご来校のうえ展示をご覧になるなど、学院の誇るべき歴史の発信拠点となってきました。その後、創立100周年事業での調査・収集を経て、平成10年（1998）の本館竣工とともに収蔵室と展示室が拡充され、現在の形となりました。

しかし、歳月の経過とともに収蔵室は資料で溢れ、一時は足の踏み場もない状態にありました。この現状を打破し、資料を未来へつなぐべく、今年度は大規模な整理と目録化に着手いたしました。方向性を固める段階では、国文学研究資料館の堀内暢行先生より専門的な助言をいただき、学術的な視点に基づいた整理方針を策定しました。

事業の山場となったのは、夏季休暇中の集中整理期間です。7月28日から8月5日までの計6日間、4名のSJ（スチューデント・ジョブ）とともに作業にあたりました。酷暑のなか、学生たちは一点ずつ資料の検品と分類を繰り返し、目録のスプレッドシートに入力していきました。この集中的な取り組みの結果、12月までには文書箱約100箱分の資料整理と目録化が完了し、記念室の資料が検索可能な形でアーカイブ化されました。

# SJレポート

集中整理にあたってくれた学生4名の体験記をご紹介します。

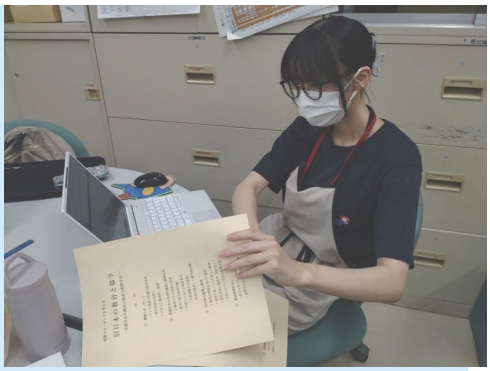
※ 学部・学年はすべて当時のものです。

夏休みの6日間、学院志研究室のSJとして追手門学院小学校の記念室の整理をしました。これがSJとしてはじめての勤務だったため、最初は少し不安がありましたが、小倉さんが丁寧に仕事を説明してくださり、一緒に勤務した仲間とも協力し合えたおかげで楽しく有意義な6日間になりました。資料の整理をしていく中で、戦争中のものや戦争以前の資料も見つかり、そのたびに先生方が解説をしてくださったおかげで追手門の歴史についての知識を深めることができました。普通のアルバイトでは体験できない貴重な経験を得ることができました。ありがとうございました。

（心理学部2回生　大宅 瑚華）

今回の学院志研究室のSJに応募したのは、歴史的資料の整理に興味があったからです。大学では近代文学の研究をしたいと考えており、「いつかこの経験が役に立つかもしれない」という思いもありました。主な仕事内容は、資料整理と目録登録です。記念室の収蔵室に収められている資料を確認し、目録を作成し、ラベリングして整理する作業を行いました。大阪偕行社附属小学校時代の資料も数多くあり、実際に手に取ってみることで、追手門学院の歴史を改めて感じることができました。 通常のアルバイトでは体験できない貴重な経験ができ、とても充実した六日間だったと思います。ありがとうございました。

（文学部2回生　沖田 倫未）



夏休み中の6日間、学院志研究室のSJとして追手門学院小学校の記念室で資料整理・目録登録のお仕事をしました。夏休みに入り、何か自分にできることがしたいと思い応募しました。初めて記念室に入った時は、足の踏み場もなく、とても6日間で終わるとは思っていませんでした。ですが、小倉先生を含め5人で分担・協力することができたので、スムーズに作業を進めることができました。見違えた記念室を見た時に、達成感と感動がありました。差し入れとしてもらったお菓子を皆で食べながら話したこともいい思い出です。この仕事が私のSJ初仕事で本当に良かったと思います。とても楽しかったです！

（心理学部1回生　山脇 悠楓）

小学校記念室でのSJを通じて、私は「情報整理力」と「歴史を繋ぐ重要性」を学びました。特に大きな経験となったのは、資料を分類・整理し、目録としてスプレッドシートへ入力していく作業です。資料を保存箱のサイズに合わせて区別し、分類や細目の記号を付与してアーカイブ化していく工程は、非常に根気の要るものでした。

なかでも一番苦労したのは、祝辞・答辞の資料群です。これらは一点一点の内容を読み解きながら、年度ごとに仕分けていかなければなりませんでした。それぞれの時代背景や保護者の方々の想いを汲み取りながら整理する必要があったためです。この作業を丁寧に進めた結果、最終的には戦時中から現代に至るまでの変遷を、順を追って確認できる形にまで整理することができました。歴史の断片が体系化されていく過程に携われたことは、私にとって大きな学びとなりました。

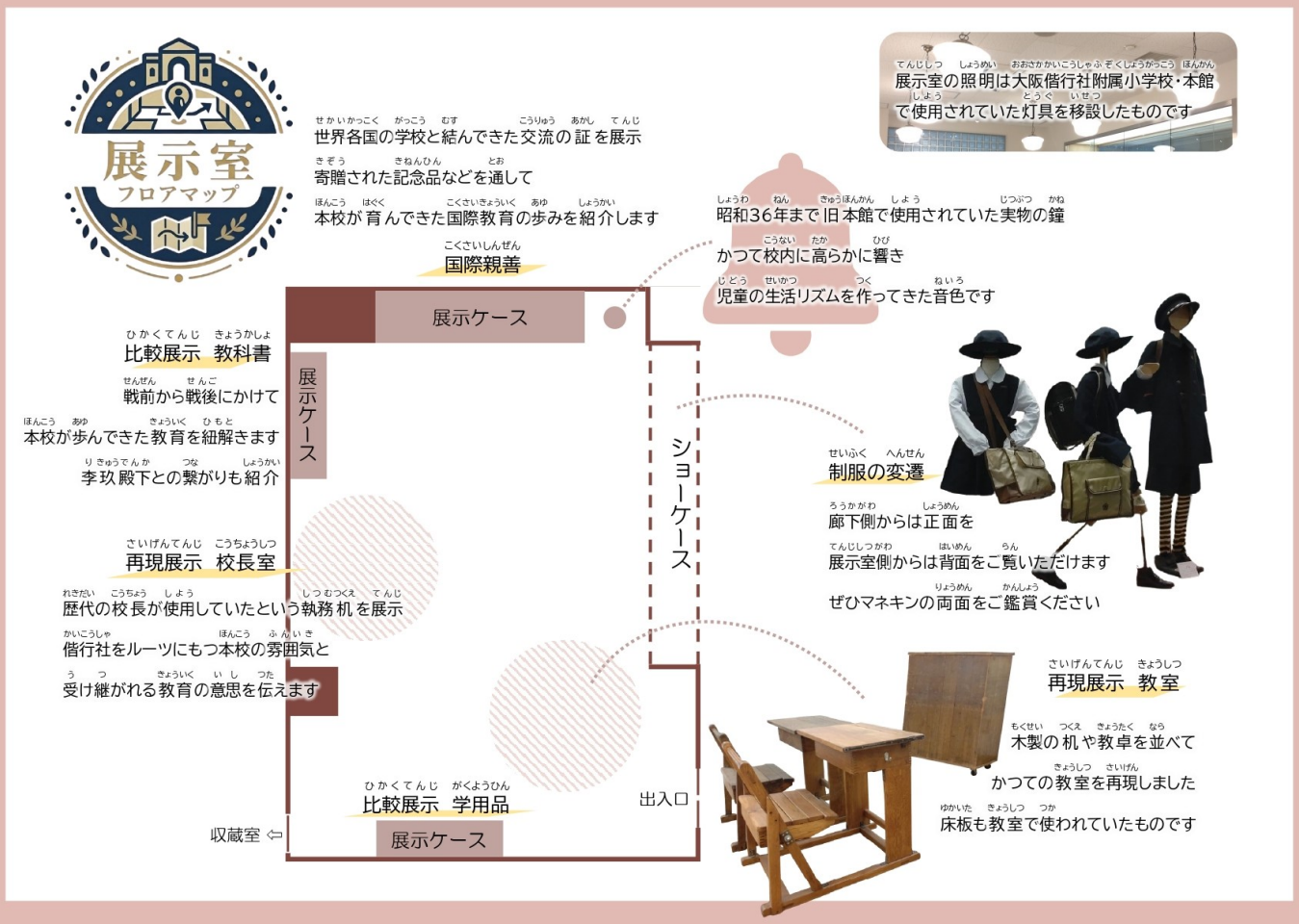
（経済学部1回生　岡山 湘瑛）

# 小学校記念室 ― 展示室の展示替え ―

収蔵室の整理完了を受け、年明けの1月からは展示室の展示替えに着手しました。整理の過程で再発見された知見を活かしつつ、校長先生・教頭先生へのヒアリングにより「昔と今の学校教育」をテーマにした展示の構成を企画。3月には、小学校の教員を対象にお披露目を兼ねた報告会を開催いたしました。先生方に新しくなった展示をご覧いただいたことで、記念室は単なる保管場所ではなく、教育現場へ歴史を還元する生きた空間として、新たな一歩を踏み出しました。

Before

After



# 2025年度博物館実習
## アカデミックベース冒険記録

2025年度の博物館実習は22名の履修があり、学院志研究室ではこの実習のサポートを行いました。学生たちが主体となって作り上げた展示「アカデミックベース冒険記録」の制作を支援いたしました。この展示は、総持寺キャンパスのアカデミックベースのスポットを学生ならではの等身大の視点で捉え直し、一つの「冒険」として紹介するものです。

実習生たちは模型班、パネル班、映像班の3つのグループに分かれ、それぞれの役割を通じて制作に励みました。模型班は空間の構造を立体的に再現し、パネル班は情報を視覚的に整理し、映像班は予約席などの利用方法を動的に伝え、多角的な表現を追求しました。

大学附属図書館のご協力により、アカデミックアーク4階のプロムナードで公開されたこの展示は、現在は終了いたしましたが、実習の成果を多くの方々に観ていただく機会となりました。

## 全国大学史資料協議会西日本部会　第2回研究会を開催

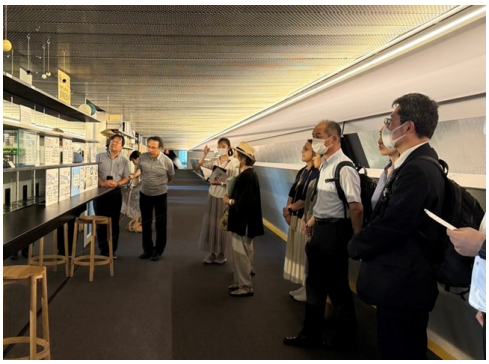
2025年7月22日（火）、総持寺キャンパス アカデミックアークを会場として、2025年度全国大学史資料協議会西日本部会第2回研究会が開催されました。当日は学外から26名の専門職・研究者が参加し、大学アーカイブズのあり方をめぐって活発な議論が交わされました。

研究会は、藤吉学院志研究室長（社会学部教授）による会場校挨拶ののち、研究報告として小倉室員が「文書管理規程と大学アーカイブズ」と題して登壇。大学における文書管理の制度設計と、歴史資料としてのアーカイブズ保存をいかに両立させるかという、実務に即した今日的な課題について報告を行いました。

その後の質疑応答でも、各大学が直面する文書管理の現状を踏まえた意見交換が行われ、知見を深める貴重な機会となりました。また、見学会では、学生による2025年度博物館実習展示の案内が実施され、学外からの参加者に日頃の学習成果を直接披露する機会となりました。研究会は、終始和やかな雰囲気のなか、盛況のうちに終了いたしました。

会場校挨拶

研究会


見学会

## 全史料協近畿部会主催のAtoM入門実習に参加

2025年12月13日（土）、近畿大学にて開催されたデジタルアーカイブシステム「AtoM（Access to Memory）」の入門実習に小倉室員が参加しました。

実習前半は、大阪樟蔭女子大学の櫻田和也准教授より、国際標準の記述規格に基づいたシステム構築の講義が行われました。後半は、あまがさきアーカイブズ提供の実物データを用い、PCでの登録・編集作業を体験しました。

本実習を通じ、資料の階層構造を一元管理し、デジタルデータを直接紐付けられるAtoMの有用性を再確認しました。政府の「知的財産推進計画2024」でも歴史的資料のアーカイブ化が急務とされるなか、ICA（国際文書館評議会）基準を学校資料にどう適合させるか、今後の有機的なアーカイブ構築に向けた貴重な指針を得る機会となりました。

# 活動日誌

（2025年4月～2026年３月）

## 2025年

| | |
|---|---|
| 4月17日 | 小倉室員が小学校を訪問。記念室の整理について相談を受ける |
| 28日 | 博物館実習において将軍山会館を見学。小倉室員が対応 |
| 30日 | 学院志研究室News Letter第17号を発行 |
| 5月 7日 | SJの学生1名が資料室で業務開始（春学期のみ） |
| 15日 | 小学校記念室の整理に着手（以降、月2回のペースで小学校へ） |
| 19日 | 小倉室員が全国大学史資料協議会西日本部会第1回研究会（於、近畿大学）に参加 |
| 6月 4日 | 小学校のエントランス解説シートを作成<br>LibrariE https://web.d-library.jp/otemon/g0102/libcontentsinfo/?conid=502983 |
| 12日 | 小倉室員が国立公文書館主催の令和7年度「国際アーカイブズ週間」記念講演会にオンラインで参加 |
| 16日 | 総持寺キャンパス アカデミックベース6階ラウンジに学院志コーナーを設置 |
| 25日 | 国文学研究資料館の堀内暢行先生を招聘 |
| 7月22日 | 全国大学史資料協議会西日本部会第2回研究会を開催 |
| 28日 | SJの学生4名と小学校記念室の集中整理（8月5日まで） |
| 8月 1日 | 内部監査室による業務監査 |
| 9月18日 | 将軍山会館のピアノ調律 |
| 10月 9日 | 小倉室員が全国大学史資料協議会2025年度全国研究会（於、大阪大学）に参加 |
| 11月21日 | 東海大学文学部歴史学科2年生の沖崎さんが将軍山会館に来館。関原六資料群を閲覧・調査 |
| 12月 9日 | 小学校記念室の展示についてコンセプトをヒアリング |
| 13日 | 小倉室員が全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会主催のAtoM入門実習（於、近畿大学）に参加 |
| 19日 | 室員会議（オンライン） |

## 2026年

| | |
|---|---|
| 1月 5日 | 株式会社オーティーエムの坂口代表取締役社長より資料寄贈 |
| 13日 | 将軍山会館の音響設備工事を開始 |
| 22日 | 大学60周年記念事業の打ち合わせ |
| 2月10日 | アカデミックベース6階ラウンジの学院志コーナーの展示替え |
| 13日 | 将軍山会館の音響設備工事が完了し、デジタルサイネージの運用を開始 |
| 26日 | 「資料出納願」を改訂 |
| 3月18日 | 小学校記念室の展示替えを完了し、報告会を実施 |
| 27日 | 大学60周年記念事業の広報の打ち合わせ |

## 2026年度 室員・調査員

| | | |
|---|---|---|
| 室 長 | 藤吉 圭二 | （社会学部） |
| 室 員 | 瀧端 真理子 | （心理学部） |
| | 原田 章 | （経営学部） |
| | 住谷 研 | （中・高等学校） |
| | 小倉 久美子 | （総務課） |
| 調査員 | 東田 充司 | （小学校元校長、基盤教育機構元教授） |

## 編集後記

ニューズレター18号をお届けします。天野利武初代学長のもと本学が開学して今年は60年に当たります。学院創立120周年（2008年）、大学創立50周年（2016年）ほど大々的ではありませんがいくつか記念の企画も準備されており、微力ながら当室も協力しています。その中心に国立公文書館認証アーキビストがいます。教育機関に限らず自治体や企業のような組織の活動記録などを適切に保存し後世に伝えるという地味ながら貴重なアーキビストという職業が近年ようやく認知されるようになってきました。国内でアーキビストとして仕事に携わる人々を紹介する一般向け書籍が刊行されました。日本アーカイブズ学会編『アーキビスト 未来への履歴書』岩田書院、2025年刊。よかったらお手にとってご覧になってみてください。

（室長・藤吉圭二）

### 資料の寄贈・移管のお願い

学院志研究室では、追手門学院の歴史および学院関係者の事跡に関する資料を広く収集しています。

広報誌などの学内刊行物、記念品、写真、フィルム、学生生活に関わるものなど、学院に関する資料がございましたら、つぎの「お問い合わせ先」までお気軽にご連絡ください。

**追手門学院大学 学院志研究室 News Letter 第18号** 2026年5月21日発行

■お問い合わせ先■

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15

072-665-5062（内線4405）

archives-g@otemon.ac.jp

バックナンバーはホームページでダウンロードしていただけます